(2) 申請年度と被保険者区分のクロス表

被保険者区分では、どの年度も「1 号被保険者」が 96%以上を占めており、2 号被保険者は、4%に満たない程度であった。

表 I-14　申請年度と被保険者区分のクロス表

	被保険者区分		
申請年度	1 号被保険者	2 号被保険者	合計
1999 年度申請	2337101	74373	2411474
2000 年度申請	4149508	156387	4305895
2001 年度申請	4626114	175792	4801906
2002 年度申請	4689648	178424	4868072
2003 年度申請	4964268	187497	5151765
2004 年度申請	788391	29373	817764
合計	21555030	801846	22356876

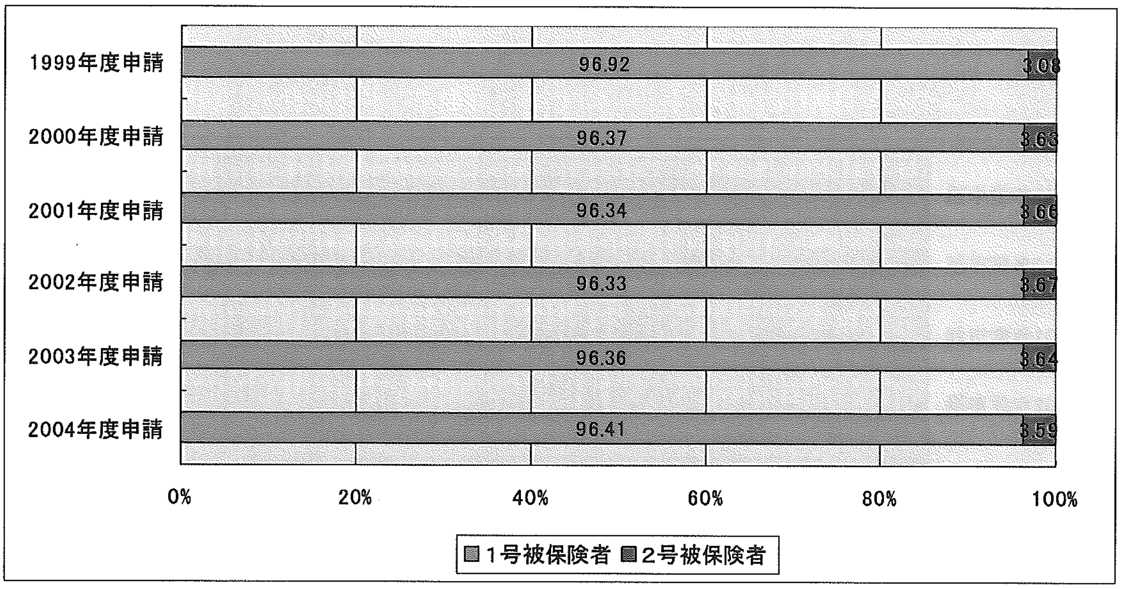

図 I-12　申請年度毎の被保険者区分の割合

(3) 申請年度と年齢のクロス表

年齢の度数について、どの年度も「80～84 歳」が最も多く、例年 23-24%を示していた。次いで多いのは「85～89 歳」で 20-22%を示していた。従って 80 歳代の高齢者が要介護高齢者の概ね 5 割を占めていることがわかった。

表 I-15　申請年度と年齢のクロス表

	年齢											
申請年度	59歳以下	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳～104歳	105歳以上	合計
1999年度申請	34390	46827	153822	288597	452488	562482	533486	264335	66802	7793	452	2411474
2000年度申請	73993	85932	285633	516666	795268	991980	939237	484192	118413	13821	760	4305895
2001年度申請	85994	93686	316268	578084	906031	1105116	1031811	542366	126142	15634	774	4801906
2002年度申請	88482	93585	319470	598447	941798	1120286	1013145	544050	131770	16211	828	4868072
2003年度申請	92939	97633	329221	632158	1010110	1201627	1045815	576662	146667	17953	980	5151765
2004年度申請	14315	15440	49921	98767	160327	193056	164208	93807	24669	3103	151	817764
合計	390113	433103	1454335	2712719	4266022	5174547	4727702	2505412	614463	74515	3945	22356876

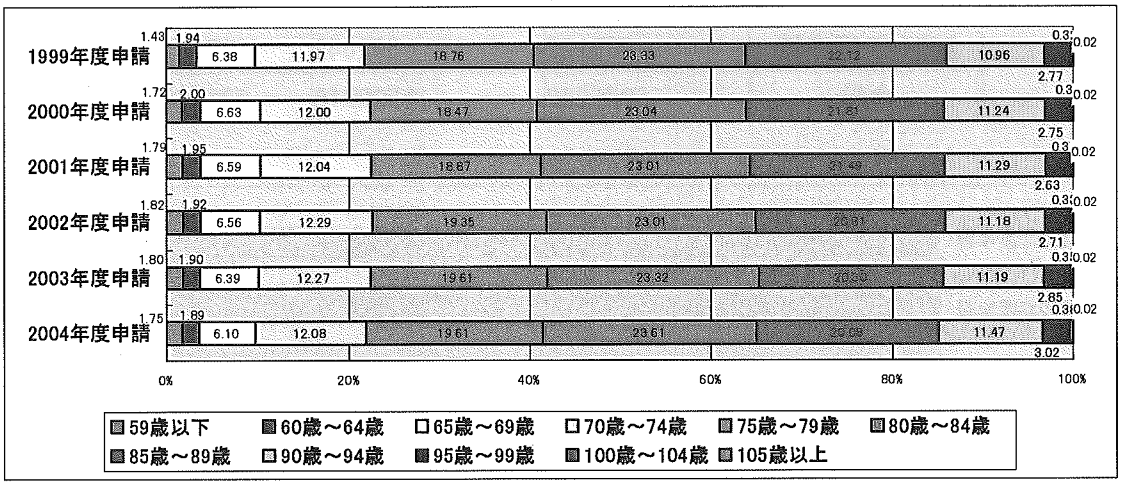

図 I-13　申請年度毎の年齢の割合

(4) 申請年度と性別のクロス表

性別の度数について、すべての年度において「女性」は 7 割、「男性」が 3 割程度という比率であった。

表 I-16　申請年度と性別のクロス表

	性別		
申請年度	男	女	合計
1999 年度申請	704071	1707403	2411474
2000 年度申請	1304098	3001797	4305895
2001 年度申請	1475570	3326336	4801906
2002 年度申請	1512525	3355547	4868072
2003 年度申請	1605472	3546293	5151765
2004 年度申請	255122	562642	817764
合計	6856858	15500018	22356876

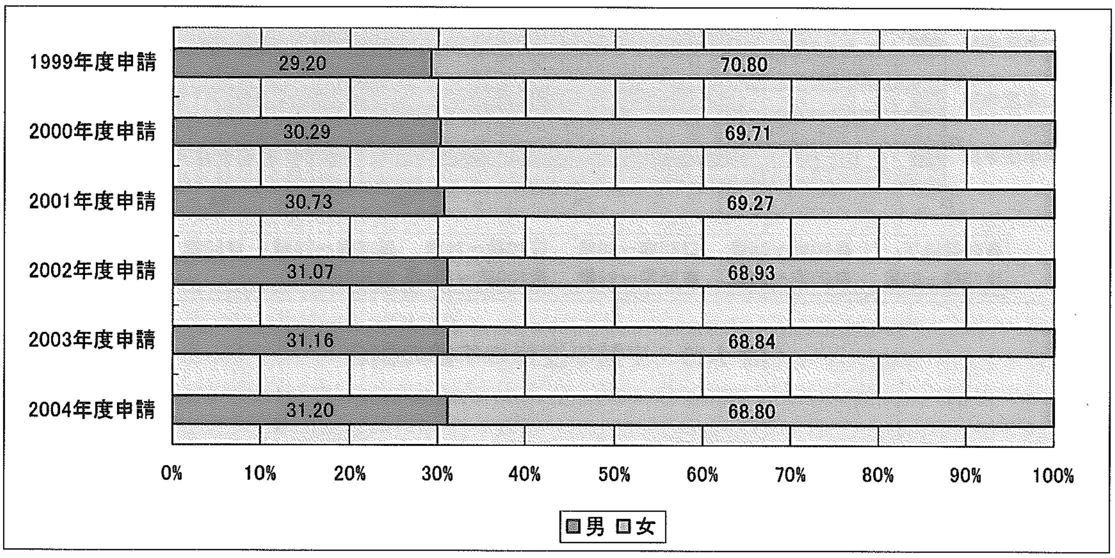

図 I-14　申請年度毎の性別の割合

2. 申請年度別要介護認定など

(1) 申請年度と一次判定のクロス表

一次判定においては、いずれの年度も「要介護 1」の割合が最も高かった。1999 年度から毎年、要介護 2 以上の割合は、減少している。2001 年度の申請から要介護 1 の割合が増加し、33%をこえ、2002 年には 34.28%と増加を続け、2003 年には、34.15%と若干、その割合は下降したが、2004 年度には、3467%とさらに、その割合は増加した。2003 年、2004 年は、2002 年度までに比較すると、要支援の割合が増加し、17%を超え、要介護 1 に次いで大きな割合を占めるようになっている。

表 I-17　申請年度と一次判定のクロス表

	一次判定							
申請年度	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
1999年度申請	150315	301508	635135	370410	343199	331487	279116	2411170
2000年度申請	98393	584427	1317481	674299	575158	558643	497263	4305664
2001年度申請	90188	732691	1604686	727263	593241	557924	495675	4801668
2002年度申請	93821	823958	1668648	683386	547720	533577	516689	4867799
2003年度申請	182460	883879	1759440	652274	562297	567435	543885	5151670
2004年度申請	29295	141502	283545	102416	89339	89575	82068	817740
合計	644472	3467965	7268935	3210048	2710954	2638641	2414696	22355711

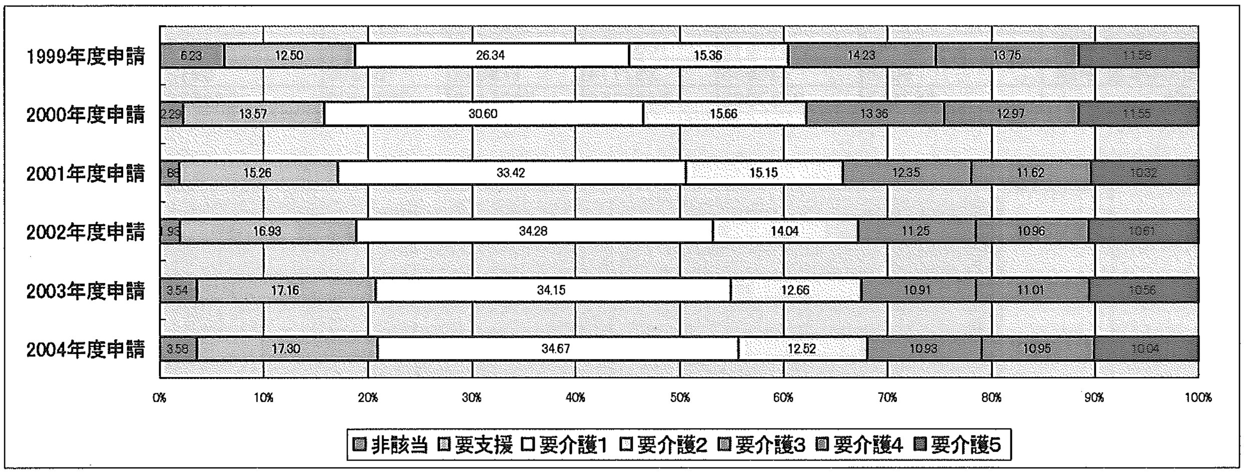

図 I-15　申請年度毎の一次判定の割合

(2) 申請年度と二次判定のクロス表

二次判定においては、いずれの年でも「要介護 1」の割合が高かった。1999 年から、その割合は、年々、増加しつづけ、2004 年度には 31.45%を示している。同様に 2000 年度から増加しつづけているのが要支援で 12.37%が 16.71%まで増加している。。

一次判定においては、いずれの年度も「要介護 1」の割合が最も高かった。1999 年度から毎年、要介護 2 以上の割合は、減少している。2001 年度の申請から要介護 1 の割合が増加し、33%をこえ、2002 年には 34.28%と増加を続け、2003 年には、34.15%と若干、その割合は下降したが、2004 年度には、34.67%とさらに、その割合は増加した。2001 年から減少しているのは、要介護 2 であり、19.15%から 2004 年は、14.56%まで減少した。

また 2000 年度は、非該当、要支援、要介護 1 の全体に占める割合は、40.73%であったが 2004 年度は、ほぼ 5 割に達しており、軽度の要介護高齢者が増加していることが示された。

表 I-18　申請年度と二次判定のクロス表

	二次判定							
申請年度	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
1999年度申請	132573	300272	566773	407141	329097	356907	318348	2411111
2000年度申請	62947	532767	1158343	802934	590532	605299	552825	4305647
2001年度申請	49343	643867	1388665	919754	639321	617026	543689	6716758
2002年度申請	51444	726883	1447523	888020	606413	585232	562298	4867813
2003年度申請	52142	816619	1609878	768547	659547	632176	612856	5151765
2004年度申請	9068	136655	257174	119062	104380	99127	92298	10019578
合計	357517	3157063	6428356	3905458	2929290	2895767	2682314	22355765

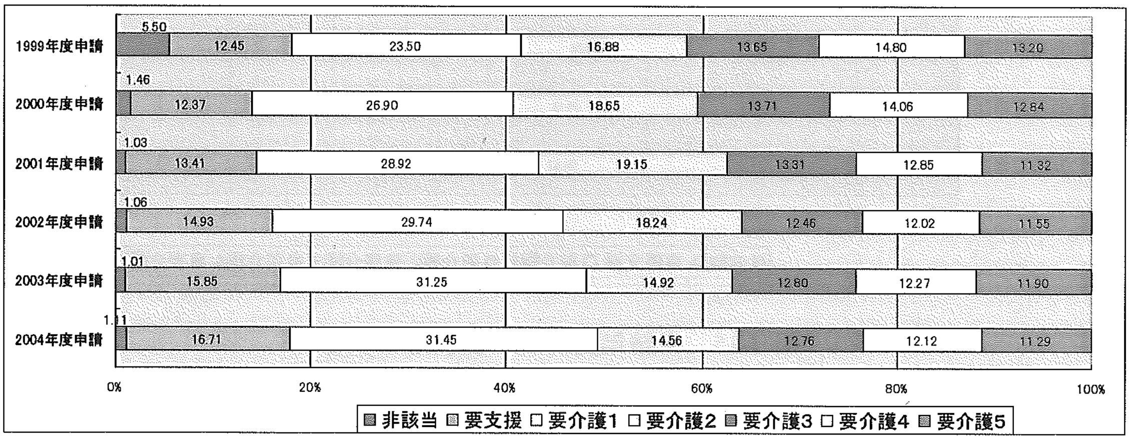

図 I-16　申請年度毎の二次判定の割合

(3) 申請年度と障害老人自立度のクロス表

障害老人自立度の度数をみると、年々、「J1」～「A2」までの比較的軽度の高齢者の割が増加していることがわかる。これらの割合は、58.98%から 66.08%へと上昇しており、要介護認定と同様の結果を示している。

表 I-19　申請年度と障害老人自立度のクロス表

	障害老人自立度									
申請年度	正常	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
1999年度申請	71215	161446	413008	408538	413702	245703	299067	128426	270369	2411474
2000年度申請	45912	216519	795409	798920	807823	448901	531233	223064	438114	4305895
2001年度申請	37516	236404	970947	948824	931315	483479	564620	218535	410266	4801906
2002年度申請	34483	250381	1032650	978468	936222	453224	555310	209320	418014	4868072
2003年度申請	38153	270924	1119981	1059069	977874	457685	580372	203583	444029	5151670
2004年度申請	6070	42037	182281	171669	154585	71702	92359	30513	66524	817740
合計	233349	1177711	4514276	4365488	4221521	2160694	2622961	1013441	2047316	22356757

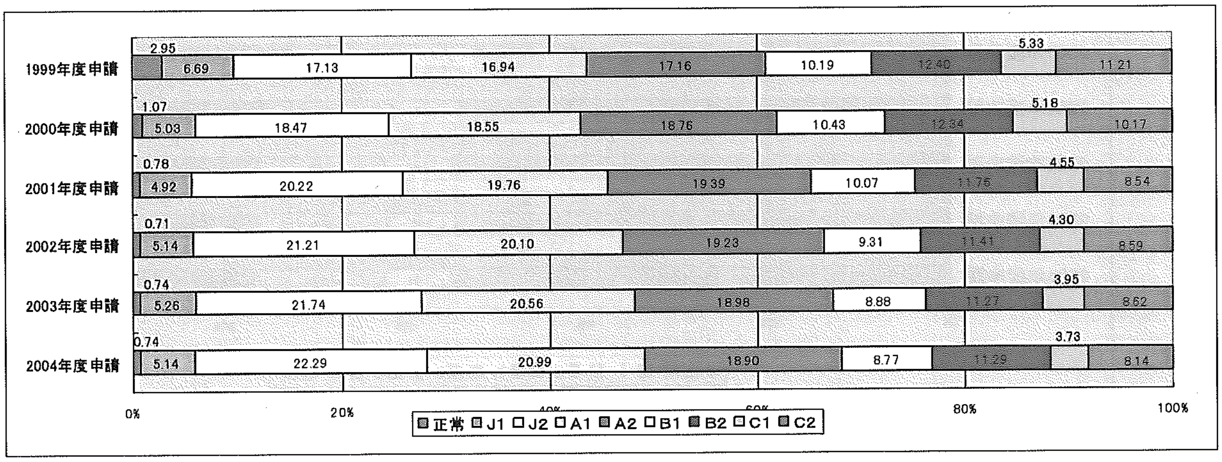

図 I-17　申請年度毎の障害老人自立度の割合

(4) 申請年度と痴呆老人自立度のクロス表

痴呆老人自立度の度数について、どの年度も「正常」がそれぞれ全体の3割程度を占めていた。年々、増加する傾向があったのは、ⅠとⅡｂの高齢者であった。

表 I-20　申請年度と痴呆老人自立度のクロス表

	痴呆老人自立度								
申請年度	正常	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
1999年度申請	870422	384452	156559	303625	317539	110495	205616	62766	2411474
2000年度申請	1417471	828872	308057	574753	562148	196892	318153	99549	4305895
2001年度申請	1578370	1005920	356262	667843	604339	202272	296630	90270	4801906
2002年度申請	1616788	1046655	361518	681803	591165	193067	286604	90472	4868072
2003年度申請	1672687	1127913	383811	744934	620834	195782	315093	90616	5151670
2004年度申請	268050	179306	60760	120231	98541	29839	48374	12639	817740
合計	7423788	4573118	1626967	3093189	2794566	928347	1470470	446312	22356757

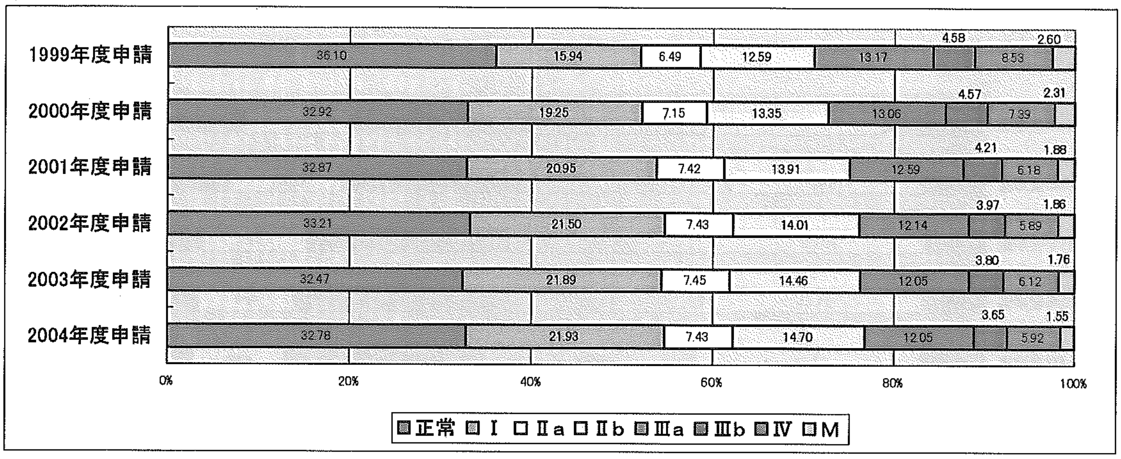

図 I-18　申請年度毎の痴呆老人自立度の割合

第4章 認定調査項目からみたわが国の要介護高齢者の特徴

1.新旧共通項目からみた要介護高齢者の特徴（基本情報に関して）

(1) 麻痺（左上）

麻痺（左上）の度数について、「なし」が 17,952,165 名(80.30%)で全体の 8 割以上を占めていた。

表 I-21　麻痺（左上）

	度数	パーセント
なし	17952165	80.30
あり	4404592	19.70
合計	22356757	100.00

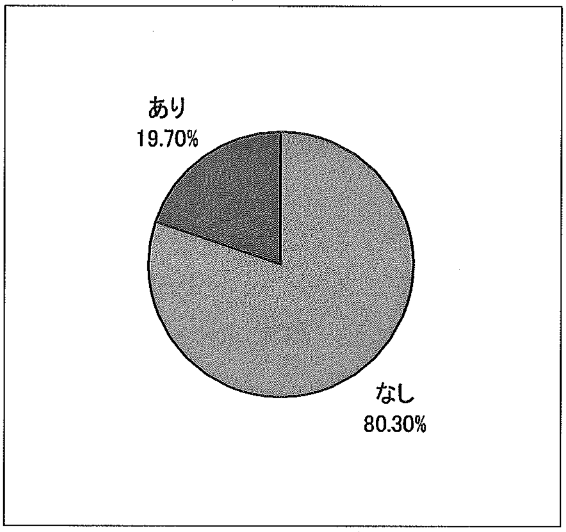

図 I-19　麻痺（左上）

(2) 麻痺（右上）

麻痺（右上）は、「なし」が 17,938,345 名(80.24%)で全体の 8 割以上を占めていた。

表 I-22　麻痺（右上）

	度数	パーセント
なし	17938345	80.24
あり	4418412	19.76
合計	22356757	100.00

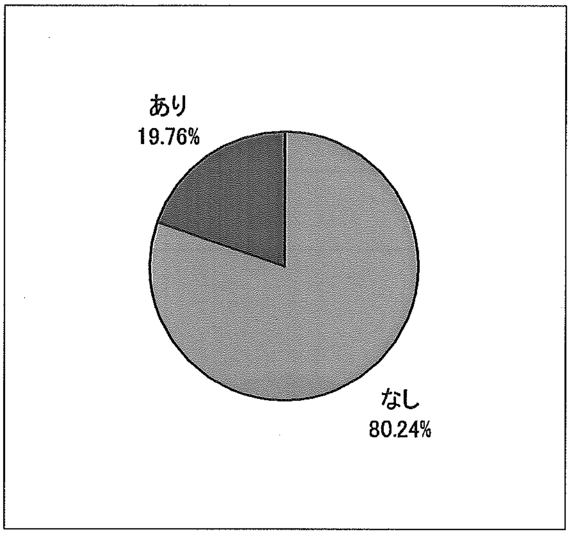

図 I-20　麻痺（右上）

(3) 麻痺（左下）

麻痺（左下）は、「あり」が 14,370,497 名(64.28%)で全体の 6 割以上を占めていた。

表 I-23　麻痺（左下）

	度数	パーセント
なし	7986260	35.72
あり	14370497	64.28
合計	22356757	100.00

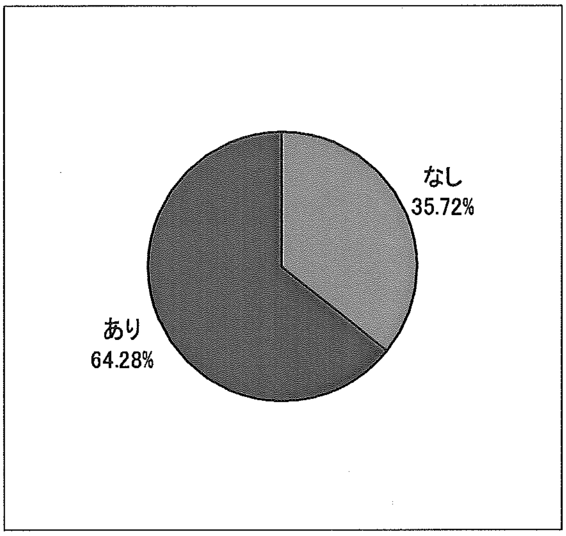

図 I-21　麻痺（左下）

(4) 麻痺（右下）

麻痺（右下）は、「あり」が 14,323,553 名(64.07%)で全体の 6 割以上を占めていた。

表 I-24　麻痺（右下）

	度数	パーセント
なし	8033204	35.93
あり	14323553	64.07
合計	22356757	100.00

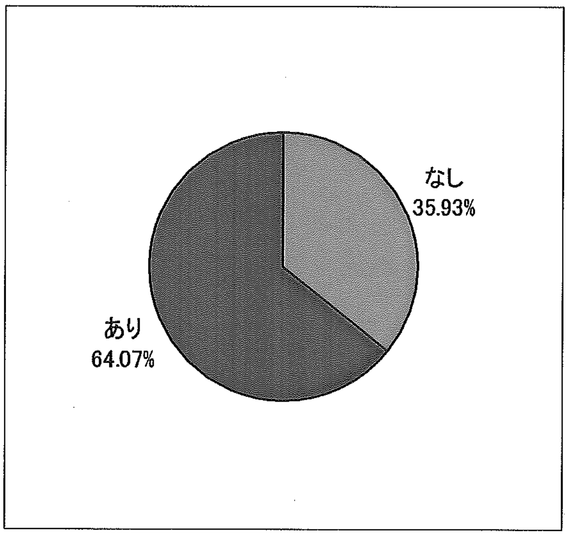

図 I-22　麻痺（右下）

(5) 麻痺（その他）

麻痺（その他）は、「あり」が 14,323,553 名(64.07%)で全体の 6 割以上を占めていた。

以上の結果からは、麻痺は、下肢の割合が 6 割と高いが、上肢は 2 割程度であることがわかった。

表 I-25　麻痺（その他）

	度数	パーセント
なし	19003536	85.00
あり	3353221	15.00
合計	22356757	100.00

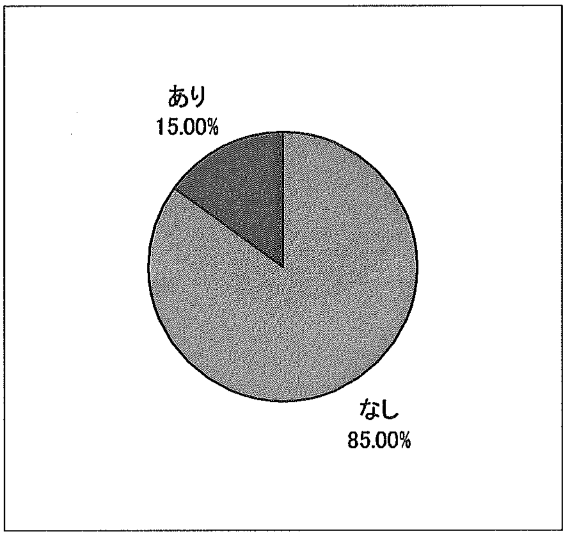

図 I-23　麻痺（その他）

(6) 拘縮（肩関節）

拘縮（肩関節）は、「なし」が 16,792,872 名(75.11%)で全体の 7 割以上を占めていた。

表 I-26　拘縮（肩関節）

	度数	パーセント
なし	16792872	75.11
あり	5563885	24.89
合計	22356757	100.00

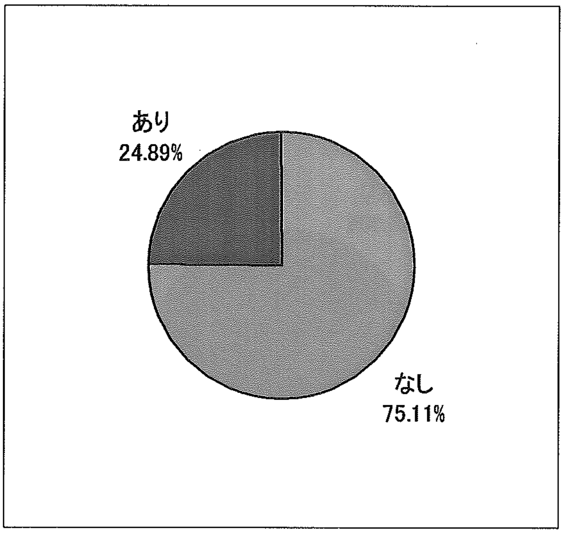

図 I-24　拘縮（肩関節）

(7) 拘縮（肘関節）

拘縮（肘関節）は、「なし」が 19,244,073 名(86.08%)で全体の 8 割以上を占めていた。

表 I-27　拘縮（肘関節）

	度数	パーセント
なし	19244073	86.08
あり	3112684	13.92
合計	22356757	100.00

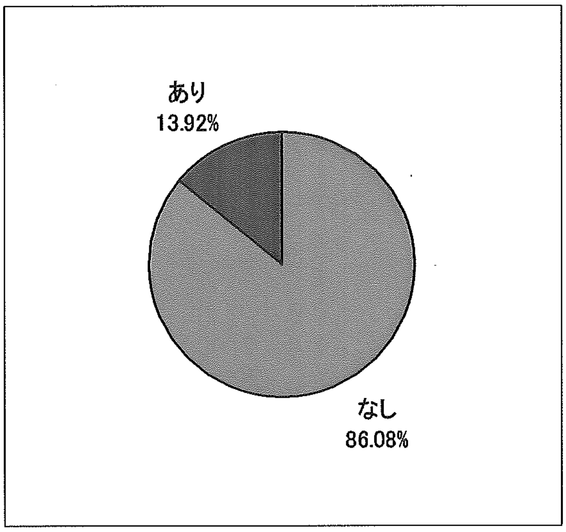

図 I-25　拘縮（肘関節）

(8) 拘縮（股関節）

拘縮（股関節）は、「なし」が 18,578,224 名(83.10%)で全体の 8 割以上を占めていた。

表 I-28　拘縮（股関節）

	度数	パーセント
なし	18578224	83.10
あり	3778533	16.90
合計	22356757	100.00

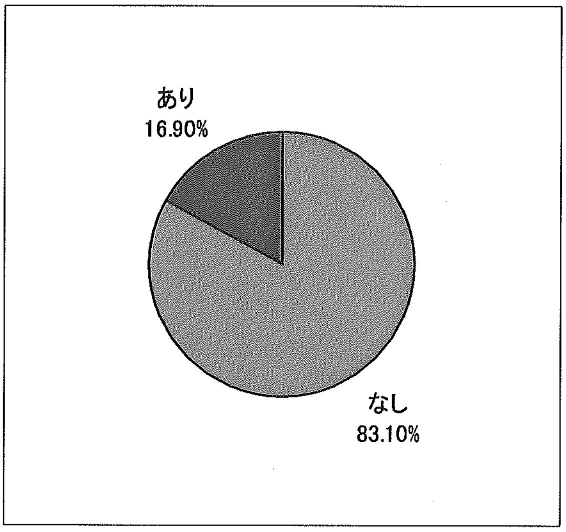

図 I-26　拘縮（股関節）

(9) 拘縮（膝関節）

拘縮（膝関節）は、「なし」が 13,176,603 名(58.94%)で全体の 6 割近くを占めていた。

表 I-29　拘縮（膝関節）

	度数	パーセント
なし	13176603	58.94
あり	9180154	41.06
合計	22356757	100.00

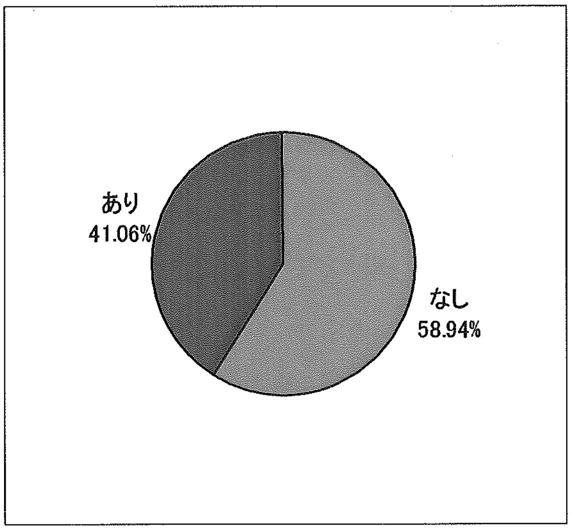

図 I-27　拘縮（膝関節）

(10) 拘縮（足関節）

拘縮（足関節）は、「なし」が 19,131,663 名(85.57%)で全体の 8 割以上を占めていた。

表 I-30　拘縮（足関節）

	度数	パーセント
なし	19131663	85.57
あり	3225094	14.43
合計	22356757	100.00

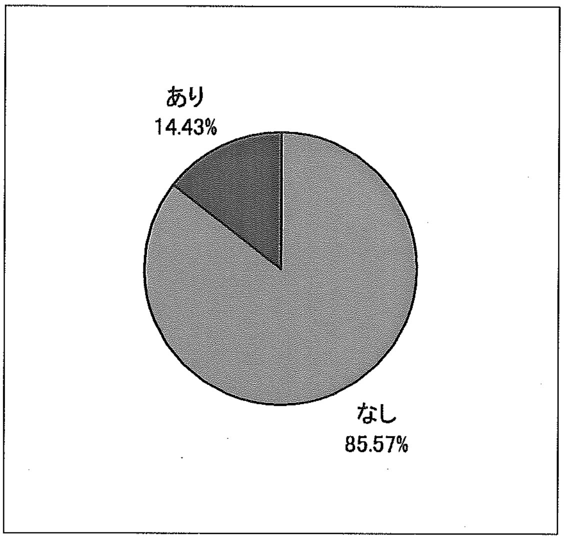

図 I-28　拘縮（足関節）

(11) 拘縮（その他）

拘縮（その他）は、「なし」が 18,465,817 名(82.60%)で全体の 8 割以上を占めていた。拘縮は、肩、肘、膝、足など、それぞれ 2 割程度に発症していた。

表 I-31　拘縮（その他）

	度数	パーセント
なし	18465817	82.60
あり	3890940	17.40
合計	22356757	100.00

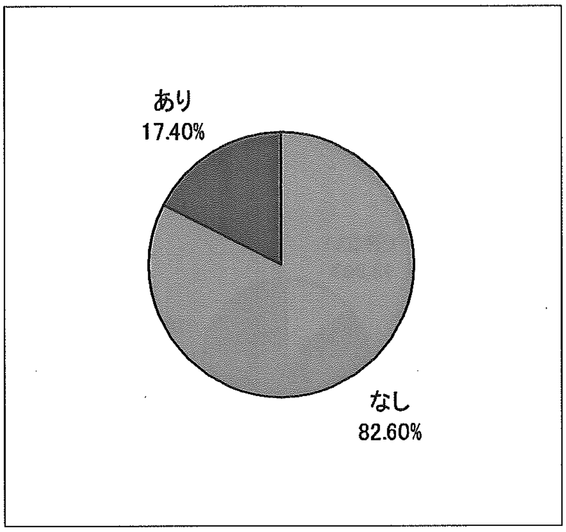

図 I-29　拘縮（その他）

(12) 寝返り

寝返りは、「つかまらないでできる」が 10,450,940 名(46.75%)で全体の半数程度は自立しており、「何かにつかまればできる」が 8,801,695 名で 39.37%と要介護高齢者の 87%においては、なんとか自立できる状況であった。

表 I-32　寝返り

	度数	パーセント
つかまらないでできる	10450940	46.75
何かにつかまればできる	8801695	39.37
できない	3104122	13.88
合計	22356757	100.00

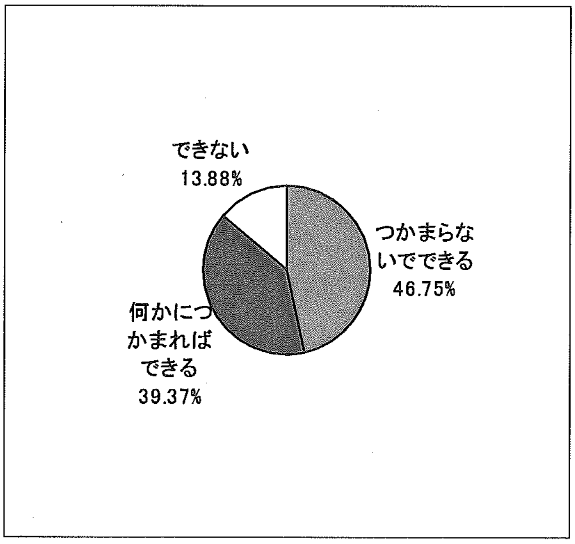

図 I-30　寝返り

(13) 起き上がり

起き上がりは、「何かにつかまればできる」の割合が最も高く 12,889,001 名(57.65%)であった。「つかまらないでできる」4,946,150 名を合わせると全体の約 8 割がなんとか自立できる状況であり、「寝返り」より、低い割合であった。

表 I-33　起き上がり

	度数	パーセント
つかまらないでできる	4946150	22.12
何かにつかまればできる	12889001	57.65
できない	4521606	20.22
合計	22356757	100.00

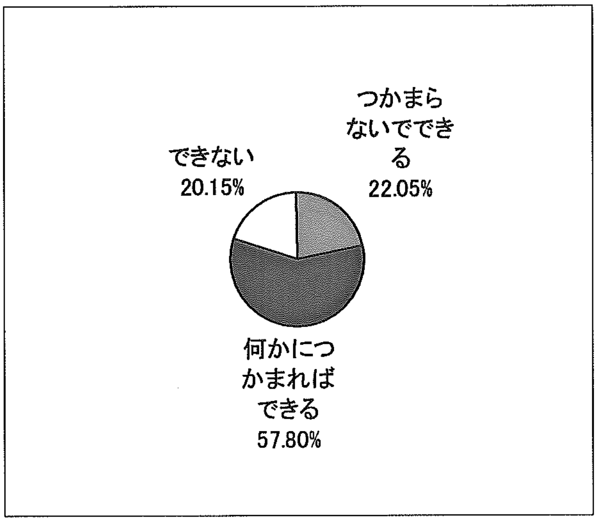

図 I-31　起き上がり